

雲仙・普賢岳火山砂防計画検討委員会 結果

- (1)「雲仙・普賢岳火山砂防基本計画」の位置づけ
 - ・資料に沿って説明を行い、概ね了承が得られた。
- (2)雲仙普賢岳をとりまく基本条件の推移
 - ・資料に沿って説明を行い、概ね了承が得られた。
- (3)平成13年度計画からの主な変更ポイント
 - ・資料に沿って説明を行い、概ね了承が得られた。
- (4)今後の検討について
 - ・委員会での指摘を踏まえて計画を整理する。整理後各委員へ確認を行い、基本計画の最終版としてとりまとめる。

指摘事項

- ・岩屑なだれの影響範囲の想定方法について、数値シミュレーションを用いていること、
どういう数値シミュレーションを用いているかの説明が欲しい。
- ・溶岩ドーム崩壊後の土石流について、岩屑なだれが発生した後、どのような理由で
土石流が発生しやすくなるかの説明が欲しい。
- ・施設配置の見直しで、おしが谷15号、16号床固工の代替案として水無川4号砂防
堰堤とおしが谷12号床固工の嵩上げを行うとあるが、掘削でなく施設の嵩上げを選択
した根拠の説明が欲しい。
- ・次回の噴火が発生して新たに大量の不安定土砂が発生した場合、施設の容量を確
保するための掘削土砂も膨大になると考えられる。掘削土の処理はどう考えているの
か。
- ・計画で対象とする雨量は気象庁の雲仙普賢岳測候所での値を用いているとのことだが、
対象流域から遠くないか。
- ・水無川上流床固工群を当面施工しない根拠について、根拠としている期間の雨量等も
考慮してもう少し詳細に説明して欲しい。